

## ニューナイスズメ (スズメ科) 全長 14 センチ

いま、大仙市の田んぼは徐々に黄金色に変わってきたが、二子沢公園などの高台から眺めるとまるでパッチワークです。1年で一番見ごたえのある風景が広がります。

たわわに実った田んぼで、ニューナイスズメがせわしなく飛び交っています。数十から数百羽の群れが、田んぼの中に入ったり出たりを繰り返していた。

昔、スズメは農家にとって稲を食い荒らす害鳥として追い払われてきた歴史があります。

広い田んぼの中にやぐらを組み、そこから長い縄に鳴り物をぶら下げ、それを引っ張りながらスズメを追い払うのが子供の役割でした。懐かしい思い出です。



スズメと比べると、体全体が赤身の強い褐色で、頬には黒斑がない。  
(オス)

スズメとニューナイスズメの違いを見つけるには、双眼鏡を持っていなければ難しいでしょう。

どちらも稲穂が好物ですが、何十羽もの集団で田んぼに飛来するのは、ニューナイスズメと見て間違いないようです。常に田んぼにたむろしている訳ではなく、天敵に対していつでも逃げ込める葦原などの隠れ場所が必要です。



メスは全体が白っぽい。



葦原でくつろぐ。

大浦沼周辺の田んぼは、この条件にピッタリです。

葭原の繁みに隠れていたニューナイスズメは、何かの合図に一齐に田んぼに移動した。急いで稲穂を食べていたが、お腹が一杯ならないうちに再び葭原に戻って来ました。こうしたことを何回も繰り返していたが、やっと満腹になったのでしょうか。葭原の繁みに身を隠しながら、賑やかな鳴き声を響かせていた。



稲穂を夢中に食べていたが、バババツと羽音をたて飛び去った。